奈文研ニュース

No.81 June 2021

NABUNKEN NEWS

NARA NATIONAL RESEARCH INSTITUTE for CULTURAL PROPERTIES

独立行政法人　国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577　奈良市二条町2-9-1
https://www.nabunken.go.jp

所長就任にあたって

本中 眞 所長

松村恵司前所長の後任として、2021年４月１日付で奈良文化財研究所長に就任しました。

松村前所長が在任された約10年は、懸案であった本庁舎の新築・移転を完了し、国立文化財機構の機関としての施設が整った時期でした。また、全国の文化財関係報告書を電子情報化する全国遺跡報告総覧事業を奈文研の重要な事業に位置づけ、公開活用システムを開始することにより、文化財保護行政に資する研究機関としての奈文研の重要な役割を内外に示した時期でもありました。このような拠点的インフラの拡充期に、研究所運営の陣頭指揮にあたられた松村前所長のご労苦とご努力に対して、敬意を表するとともに深く感謝申し上げる次第です。

奈文研は、多様な文化財の宝庫である古都奈良において、実物にもとづく総合的な観点からの調査研究をおこない、その成果を文化財保護行政に反映させるために、文化庁の前身であった文化財保護委員会の附属機関として1952年に発足しました。

その後、時代の要請により組織は拡充と変貌を遂げ、現在は研究支援推進部、企画調整部、文化遺産部、都城発掘調査部、埋蔵文化財センター、飛鳥資料館からなる４部、１センター、１館の体制となっています。

これにくわえ、2020年からは国立文化財機構の中に文化財防災センターが開設され、その本部が奈文研庁舎内に置かれることとなりました。2011年の東日本大震災をはじめ、毎年のように発生する災害からどのように文化財を守り、地域コミュニティとの連携のもとに、どのように未然の措置を講ずることができるのかは喫緊の課題です。動産のみならず、建造物・遺跡等不動産の文化財の防災に対しても、センターの貢献が求められています。

奈文研は来年70周年の節目を迎えます。この機に社会の要請に見合った奈文研のあり方をみつめ、これまでの役割にも配慮しつつ、新たな目標に向けて組織の効率的な運営に努める前提として、次の３点をふまえることが重要だと考えています。

第一には、奈良の個性に根ざした研究機関としての役割を発揮することです。南都諸大寺と古代の都城関係遺跡の保存・活用に向けて、異なる分野の研究者が連携して調査に臨むという体制を維持し、文化財の実践的・総合的な調査研究を推進していきたいと考えています。

第二には、全国の文化財の保存・活用施策の発展のために、ナショナルセンターとしての役割を発揮することです。個々の文化財の価値に根差した保存・活用の理念・手法を地域コミュニティのひとりひとりが共有できるようにするために、研究の成果と情報を安全でわかりやすく社会に還元し、行政サービスの質を高める努力がさらに求められるものと考えています。

第三には、広く国際的な情報発信に努めていくことです。従来の中国・韓国等アジア諸国との研究交流事業については、今後とも関係機関との協力のもとに充実させていく必要があります。既登録の三つの世界文化遺産と一つの候補資産を含め、世界文化遺産の分野における奈良の経験と特質を活かし、文化財の保存・活用をめぐる国際的な情報共有にも貢献したいと考えています。

今後とも、皆様方の暖かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げる次第です。　（所長　本中 眞）